



## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

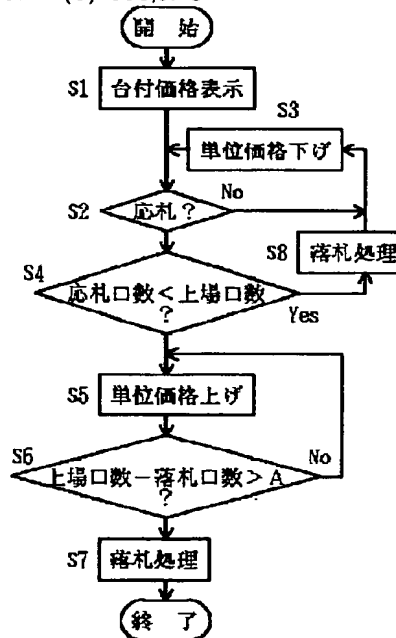
(11) Publication number: **10207966 A**(43) Date of publication of application: **07 . 08 . 98**(51) Int. Cl **G06F 19/00**(21) Application number: **09007215**(71) Applicant: **FUJITSU GENERAL LTD**(22) Date of filing: **20 . 01 . 97**(72) Inventor: **INDA FUSAO****(54) BIDDING METHOD IN AUTOMATIC BIDDING SYSTEM****(57) Abstract:**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a bidding method whose cost fluctuation on bidding cost is small in the same way as hand bidding and which can execute bidding at appropriate cost even in an automatic bidding system.

**SOLUTION:** In a step S1, cost with base is displayed on the cost column of a display device from a central processing unit and bidding is started. In a step S2, the presence or absence of proposal is viewed. If it does not exist, a loop is made to a step S3 and unit cost is reduced from previous cost and bidding is continued. When proposal is given, a system proceeds to a step S4, a regular successful bidding processing is executed in a step S8 when the number of proposals does not satisfy the number of presentations. The loop is made to the step S3 and bidding is continued. When the number of proposals exceeds the number of presentations, the system proceeds to a step S5 and bidding is executed with smaller unit cost. When the number of proposals exceeds the number of presentations in a step S6, the loop is made to the step S5 and rise bidding is continued. When the number of proposals reduces and it becomes similar to the number

of presentations or becomes less, the successful bidding processing is executed in a step S7.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-207966

(43)公開日 平成10年(1998) 8月7日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

G 0 6 F 19/00

識別記号

F I

G 0 6 F 15/28

B

審査請求 未請求 請求項の数12 O L (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平9-7215

(22)出願日 平成9年(1997) 1月20日

(71)出願人 000006611

株式会社富士通ゼネラル

神奈川県川崎市高津区末長1116番地

(72)発明者 因田 房生

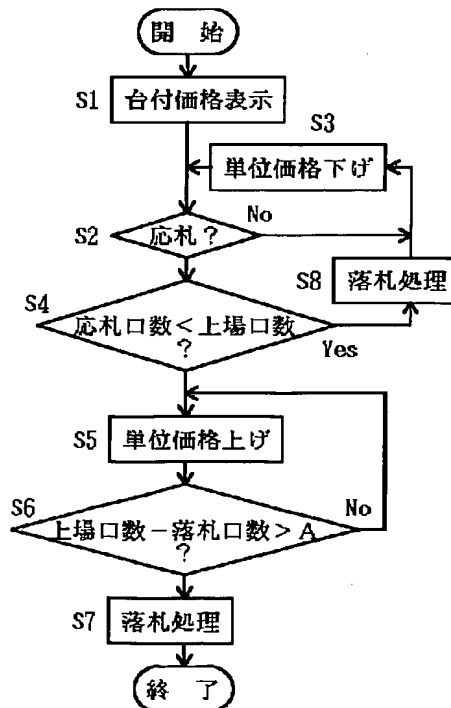
川崎市高津区末長1116番地 株式会社富士  
通ゼネラル内

(54)【発明の名称】 自動せりシステムによるせり方法

(57)【要約】

【課題】 自動せりシステムでも手せりと同様に落札価格の価格変動が小さく、かつ、適正な価格で落札されるせり方法を提供する。

【解決手段】 ステップS1で、中央処理装置1から表示装置3の価格欄に台付価格を表示してせりに入る。ステップS2での応札の有無を見て無ければステップS3にループして前の価格から単位価格だけ下げてせりを続ける。応札があった場合はステップS4に進み、応札口数が上場口数に満たなかったらステップS8で通常の落札処理を行いステップS3にループして下げせりを続ける。応札口数が上場口数を越えたらステップS5に進み、より小さい単位価格で上げせりを行う。ステップS6で応札口数が上場口数より上回るときは、ステップS5にループしてさらに上げせりを続ける。応札口数が減少して、上場口数と同数か若しくは初めてそれ以下となったときステップS7で落札処理を行う。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 中央処理装置により予め定められた手順にしたがってせり情報等を表示装置に表示し、買参人が同情報を見て買参人端末から購入口数等を入力して応札する自動せりシステムを用いてせりを行うときのせり方法において、まず、台付価格（初期価格）からせり単価価格毎に価格を下げてせりを行う下げせりを行い、応札口数が上場口数を上回る価格となったとき、前記せり単価価格を小さくして上げせりを行うようにすることを特徴とした自動せりシステムによるせり方法。

【請求項2】 前記上げせりを行った後、応札口数が上場口数と同数若しくはそれ以下となったとき落札されたものとすることを特徴とした請求項1記載の自動せりシステムによるせり方法。

【請求項3】 前記上げせりを行った後、上場口数から応札口数を差し引いた差が予め定めた一定数以上となったとき落札されたものとすることを特徴とした請求項1記載の自動せりシステムによるせり方法。

【請求項4】 前記応札されたものとするときの価格を落札価格として応札された口数を割り当てることを特徴とした請求項2又は請求項3記載の自動せりシステムによるせり方法。

【請求項5】 前記割り当てた口数の残数は、その直前の価格で応札した参買人を落札者として、その応札価格を落札価格として割り当てることを特徴とした請求項2又は請求項3記載の自動せりシステムによるせり方法。

【請求項6】 前記落札者の決定は、応札価格の高い応札者を優先し、また、同一応札価格のときは応札順に順次割り当てることを特徴とした請求項5記載の自動せりシステムによるせり方法。

【請求項7】 前記落札者の決定は、前記応札口数の多い落札者の順番に割り当てることを特徴とした請求項5記載の自動せりシステムによるせり方法。

【請求項8】 前記応札口数が0口となった場合は、その直前の価格を落札価格とすることを特徴とした請求項2若しくは3記載の自動せりシステムによるせり方法。

【請求項9】 中央処理装置により予め定められた手順にしたがってせり情報等を表示装置に表示し、買参人が同情報を見て買参人端末から購入口数等を入力して応札する自動せりシステムを用いてせりを行うときのせり方法において、落札予想価格の周辺でせり単位価格を小さくしてせりを行うようにすることを特徴とした自動せりシステムによるせり方法。

【請求項10】 前記落札予想価格は、せり人が予め予想をして、せり開始前に前記中央処理装置に入力しておくことを特徴とした請求項9記載の自動せりシステムによるせり方法。

【請求項11】 前記落札予想価格は、前回の同種の落札価格で自動設定することを特徴とした請求項9記載の自動せりシステムによるせり方法。

【請求項12】 前記落札予想価格は、過去の平均落札価格で自動設定することを特徴とした請求項9記載の自動せりシステムによるせり方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、買参人端末等を用いて花せり等を行う自動せりシステムで、落札価格の変動を小さく抑えた自動せりシステムによるせり方法に関する。

## 10 【0002】

【従来の技術】参買人端末等を用いた自動せりシステムで下げせりを行う場合、台付価格（初期価格）からせり単価毎に価格を下げて行き、買参人（買付人）が希望する価格になったときに応札し、これにより応札者が決定される。例えば、バラの一種であるローデローゼは通常100本8000円前後で取引されるが、自動せりを導入していない市場では手ぜりによる価格形成なので、細かい価格設定が可能となり、7500円から8500円での取引となる。一方、自動せりシステムを用いた場合には台付価格20000円からスタートし、せり単価の1000円毎に値を下げていくため、市況が悪いときは7000円まで下がってしまい、好調なときでも9000円で取引されることは無く、8000円で落札されるのが通例である。したがって、従来の自動せりシステムによるせり方法では、市況による落札価格の変動が大きく、また、低価格で落札されてしまうという問題があった。

## 【0003】

30 【発明が解決しようとする課題】本発明は上記問題点に鑑みなされたもので、自動せりシステムでも手ぜりと同様に落札価格の価格変動が小さく、かつ、適正な価格で落札されるせり方法を提供することを目的とする。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】まず、台付価格（初期価格）からせり単価価格毎に価格を下げる下げせりを行い、応札口数が上場口数を上回る価格から、前記せり単価価格を小さくして上げせりとたせりを行うことにより、落札価格の価格変動を小さく抑えて、落札価格を適正な価格とする。

## 40 【0005】

【発明の実施の形態】中央処理装置により予め定められた手順にしたがってせり情報等を表示装置に表示し、買参人が同情報を見て買参人端末から購入口数等を入力して応札する自動せりシステムを用いてせりを行うときのせり方法において、まず、台付価格からせり単価価格毎に価格を下げてせりを行う下げせりを行い、応札口数が上場口数を上回る価格となったら、前記せり単価価格を小さくして上げせりを行うようにする。

50 【0006】前記上げせりを行った後、応札口数が上場口数と同数若しくは初めてそれ以下となったとき落札さ

れたものとする。

【0007】前記上げせりを行った後、上場口数から応札口数を差し引いた差が予め定めた一定数以上となったとき落札されたものとする。

【0008】前記応札されたものとするときの価格を落札価格として応札された口数を割り当てる。

【0009】前記割り当てた口数の残数は、その直前の価格で応札した参買人を落札者として、その応札価格を落札価格として割り当てる。

【0010】前記落札者の決定は、応札価格の高い応札者を優先し、また、同一応札価格のときは応札順に順次割り当てる。

【0011】前記落札者の決定は、前記応札口数の多い落札者の順番に割り当てる。

【0012】前記応札口数が0口となった場合は、その直前の価格を落札価格とする。

【0013】中央処理装置により予め定められた手順にしたがってせり情報等を表示装置に表示し、買参人が同情報を見て買参人端末から購入口数等を入力して応札する自動せりシステムを用いてせりを行うときのせり方法において、落札予想価格の周辺でせり単位価格を小さくしてせりを行うようにする。

【0014】前記落札予想価格は、せり人が予め予想をして、せり開始前に前記中央処理装置に入力しておく。

【0015】前記落札予想価格は、前回の同種の落札価格で自動設定する。

【0016】前記落札予想価格は、過去の平均落札価格で自動設定する。

【0017】

【実施例】図1は、本発明による自動せりシステムによるせり方法を説明するための自動せりシステムの1例の概要ブロック図である。中央処理装置1によりせり人端末2から入力したせり情報等により予め定められた手順にしたがってせり情報等を液晶プロジェクト等からなる表示装置3に表示する。買参人が同情報を見て買参人端末4から購入口数等を入力して応札することにより自動せりシステムを行う。

【0018】図2は、本発明による自動せりシステムによるせり方法の1実施例を示す概要フローチャートである。せり人によるせり人端末からせり開始指示等によりせりが開始するとまずステップS1で、中央処理装置1から表示装置3の価格欄に台付価格（初期価格）を表示してせりに入る。ステップS2でこの価格での応札の有無を見て無ければステップS3にループして前の価格から予め定めた単位価格だけ下げてさらにせり続ける。応札が有った場合はステップS4に進み、応札口数が上場口数に満たなかった場合はステップS8で通常の下げせりにより落札処理を行い、ステップS3にループしてさらに下げせり続ける。応札口数が上場口数を越えたらステップS5に進み、ステップS3の下げ単位価格よ

り小さい単位価格で上げせりを行う。ステップS6で応札口数が上場口数より上回るときすなわちある一定値Aを0として上場口数－応札口数>Aとならないときは、ステップS5にループしてさらに上げせり続ける。応札口数が減少して、上場口数と同数か若しくは初めてそれ以下となったときステップS7で落札処理を行う。そしてこのときの価格を落札価格とし、また応札された口数をそれぞれの応札者に割り当てる。

【0019】あるいは、他の実施例として上記のAを予め定めた自然数である一定数として、上場口数から応札口数を差し引いた差が一定数A以上となったとき落札されたものとし、このときの価格を落札価格として応札された口数を割り当てる。

【0020】割り当てた口数の残数は、落札されたものとする直前のステップS6あるいはステップS2における価格で応札した参買人を落札者とする。そして、前記の価格を落札価格として割り当てる。この場合、落札者の決定は、応札価格の高い応札者を優先し、また、同一応札価格のときは応札順に順次割り当てる。あるいは、落札者の決定は、前記応札口数の多い落札者の順番に割り当てる。また、応札口数が0口となった場合は、その直前の価格を落札価格とする。

【0021】図3は、本発明による自動せりシステムによるせり方法の別の実施例を示す概要フローチャートである。せりを始める前にまずステップS31で上記の中央処理装置1に落札予想価格を設定しておく。ステップS32で中央処理装置1から表示装置3に台付価格を表示して、せりを開始する。ステップS33で応札が無い場合は、ステップS34でそのときの価格が上記の落札予想価格に近いかな否かを判断し、遠い場合はステップS36にループして予め定めた一定の単位単価だけ単位単価を下げてせり続ける。ステップS34で、そのときの価格が上記の落札予想価格に近くなったら、ステップS35に進み、単位価格を小さくしてステップS36にループしてせりを行う。ステップS33で応札が有った場合はステップS37で落札処理を行い、そのせりを終了する。

【0022】前記落札予想価格は、せり人が予め予想をして、上記のせり人端末からせり開始前に中央処理装置1に入力しておく。あるいは、落札予想価格は、中央処理装置1に記憶してある前回の同種の落札価格で自動設定することもできる。さらには、落札予想価格は、中央処理装置1に記憶してある過去の平均落札価格で自動設定することもできる。

【0023】

【発明の効果】台付価格からせり単価価格毎に価格を下げる下げせりを行い、応札口数が上場口数を上回る価格から、前記せり単価価格を小さくした上げせりを行うことにより、落札価格の近辺で単位価格を小さくすることができるため、落札価格の価格変動を小さくし抑えるこ

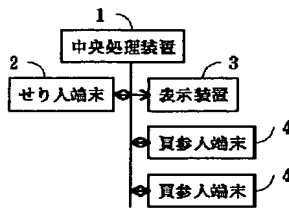
とができるとともに、適正な落札価格とすることができる。

【図面の簡単な説明】

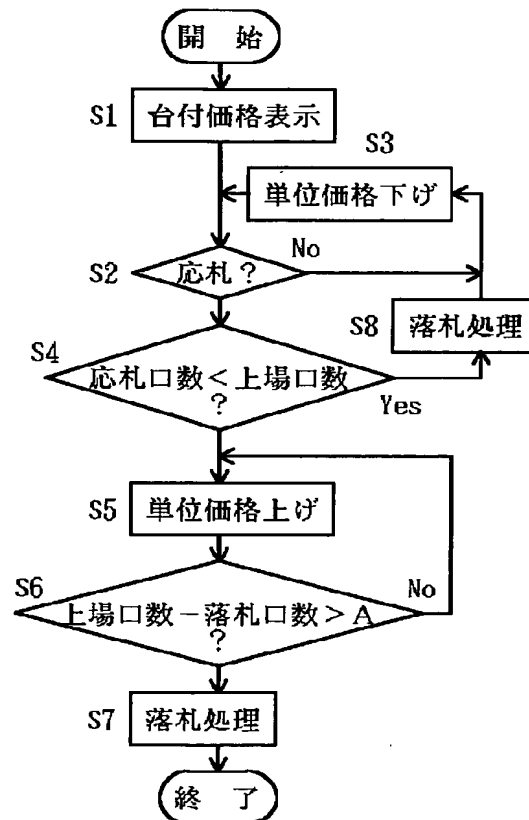
【図1】本発明による自動せりシステムによるせり方法を説明するための自動せりシステムの1例の概要ブロック図である。

【図2】本発明による自動せりシステムによるせり方法の1実施例を示す概要フローチャートである。 \*

【図1】



【図2】



【図3】

